貴重書
弘智法印岩坂之雲
前編
全六冊
外題
壬午春
豊國画

40.8.26
ナ306531

弘智法印岩阪廼松

全六冊 前編

墨川亭雪麻呂作

獨醒舎國直画圖

壬午春 山本榮久堂壽梓

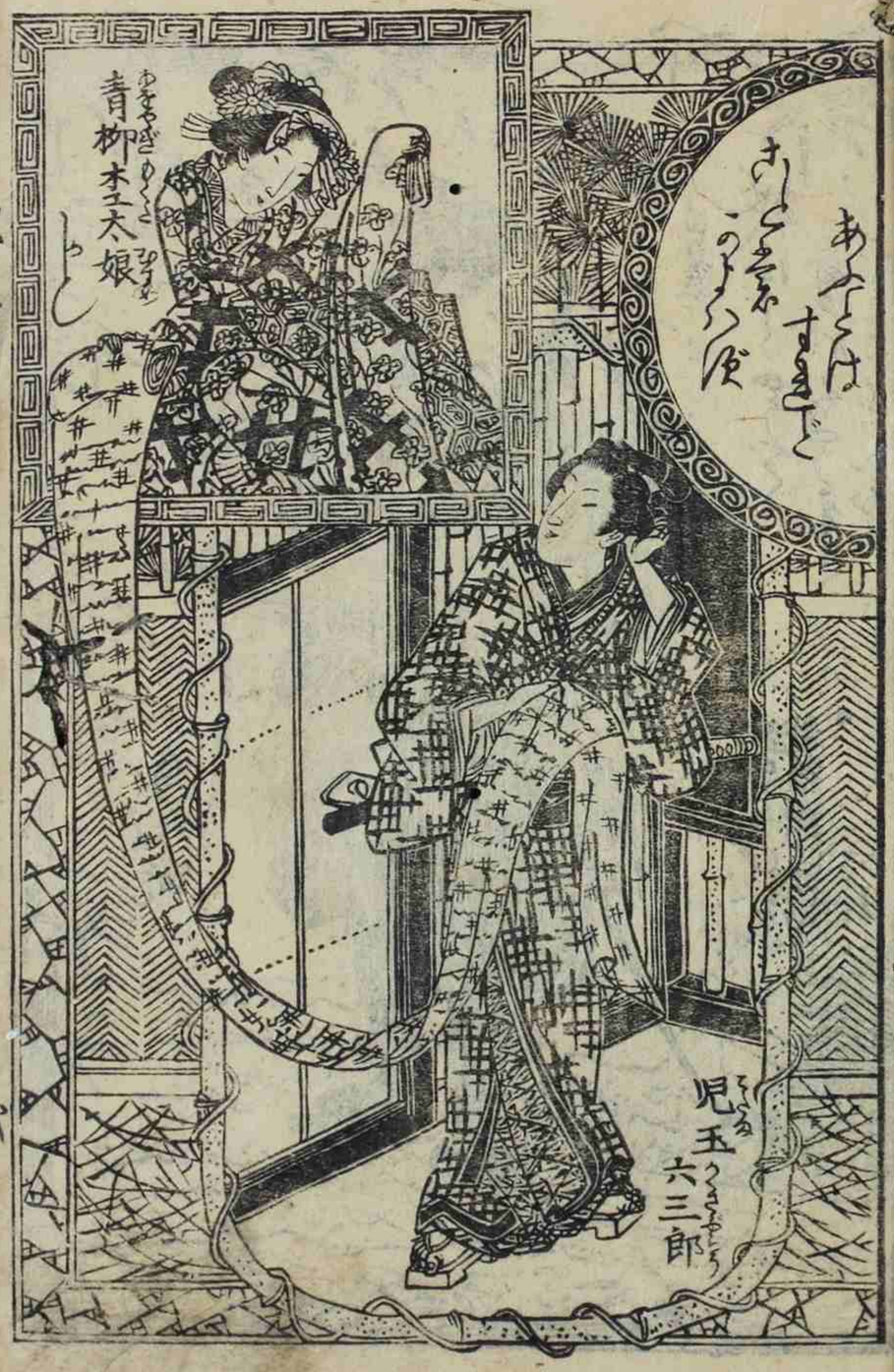
弘智法印岩坂松自叙

一楼亭蛙井は何人ぞ。往来北鐵の芋坂なり。鋤鍬なくて筆を執りて嘗て一編の書を著し号して古郷錦と云ふ。載に所謂七不思議。弘智法印が事跡に、青杉才子大が隻国斛其一の思ひ深川の彼大亀の来歴まで皆悉書載たり。僕此書を記憶して徃々人に語といへども不辨のそれあり。何がと譯ねて書を継ず。一日酔亭兀ぞうたる我諸に先生已によく知れり。譯めて此書にて及ぶ主人百杯桟燈まく盃を手て以て遂く足下戯作の場あり。此書を白奪て一編を述。書肆のもとえがされに付て、梓は彫人にのみ予是を抑て目在下素より生下戸にして經すらく長編しかとしまさに間もござりませう。ト辞義すれども強て強ら上戸の癖を恐左様なら八戴ませうト。終に一盃ひつかけて一口ちびりとやつてみれども生得の素人鼻向もならぬ文士をそれ筐を巻る書ずり八酔ての上の無分別醒ての後は只呆て看官の御評も攝み免じ給へかしと云ふ。

文政五年壬午孟陬 浣

江戸戯作者の先生 墨川亭雪麻呂戯述

婢女
紅葉
浪人
鳥水油太郎
淫婦
櫻戸

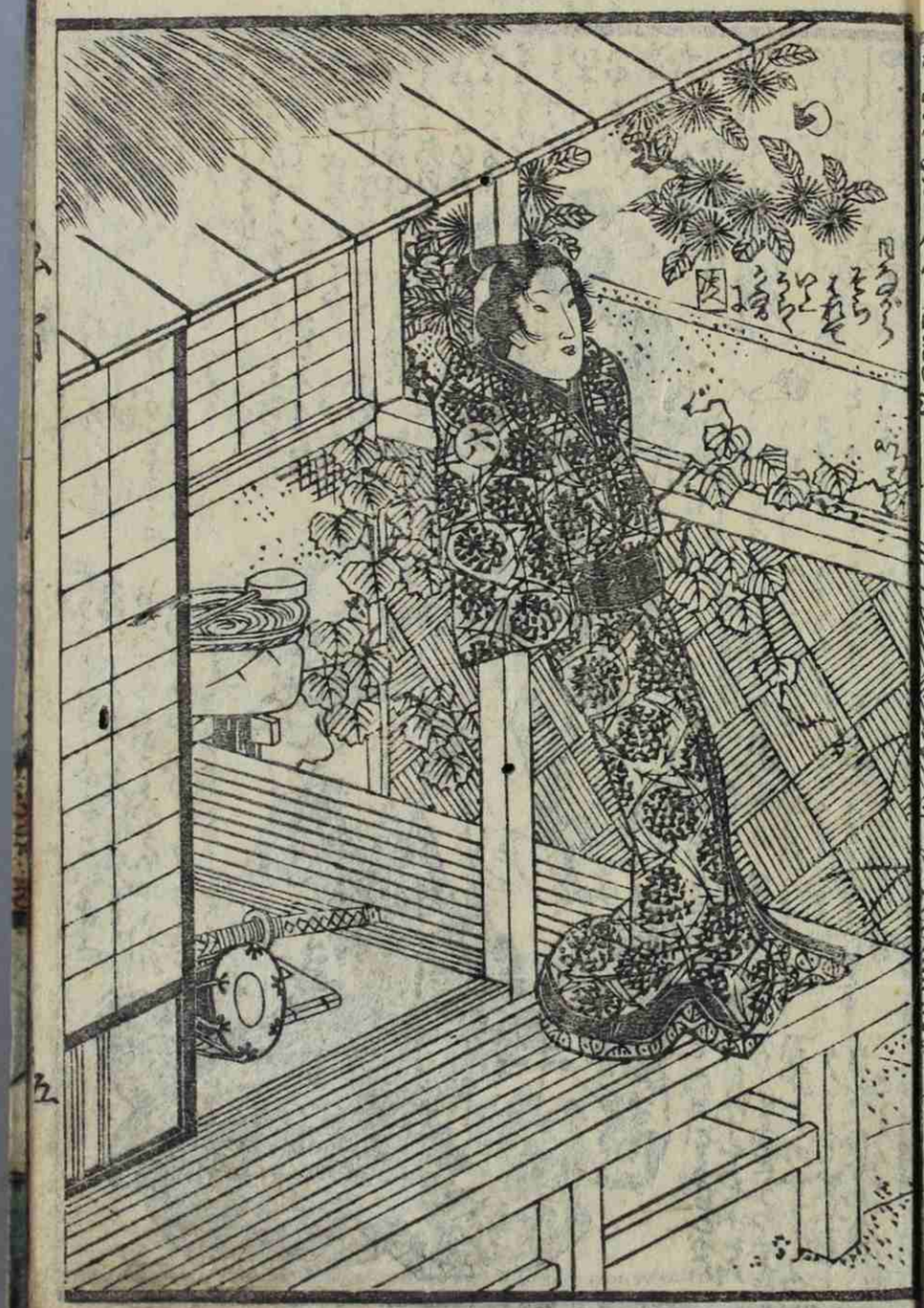

青柳木工太娘
児玉
六三郎

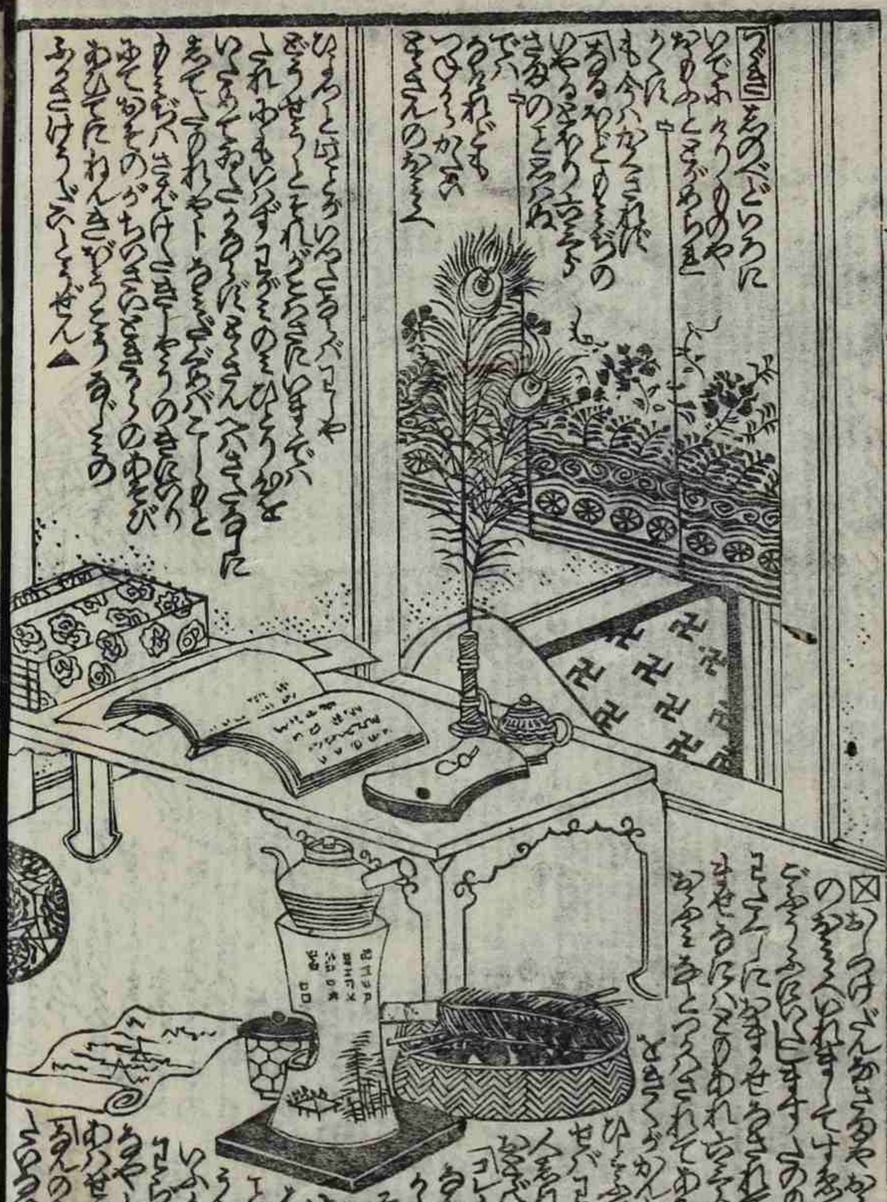
越後国
直江の津
今町にて
これ
とこの
これ
まだ
かとて
まの
雪
芭蕉
越後獅子の児
六松
角兵衛
樵夫

亡兄
竹馬友成
戴の
賤の女
白妙

いづれのころにやありけん [illegible]

法印辞世
岩坂農
あるじを[illegible]
人とゞ[illegible]
すみなれ[illegible]
かきし
[illegible]
のれと





つぎ これまでの
あらましをかたりつげば
おすゞはつゐに
さきのおもかげ
さまざまに
おもひいでても
なみだぞこぼれ
いろとりどりの
あやぎぬも
いまはすべて
みやこのかたみと
なりぬるぞ
あはれなる

ふうんざくはひらくとまものがたりきゝゐるおすゞはうなづきながらしばしのあひだ
ふかくかんがへこみしがやがてかほをあげ
ぢいやくプレゼントがさきのものゝかずでございますが
とにかくそれをこゝへ
ぜんぶならべてみやうではございませんか
まあさうでございますねえ
それではそのとほりに
いたしませう

六

油

雪

松
里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

油

国直画

墨川亭雪麿編

御かなれ妙薬 美艶仙女香 一包 四拾八文

此清くすゝ八享保十一年廿一番乃舩主伊字九と云る清朝人長崎偶居の時丸山中の近江屋の遊女翁野に授ける顔の薬れ奇方なり傳ゑ以て清朝今のまで宮中の婦人常に此薬を用ゆ粧をかざるとぞ右の傳方故にて弟が家に傳へる我此度世に弘むるものなり今世上に顔の薬と称するものあはこありとく無ハいづれも初霜の如きまじつせる薬なれども家方れ妙薬ハ別種の奇訓なれば世上の顔のくしとりと一列に下看ゆふことなるを

功能左に云るは。

▲常に用ゆるくいろを向くしきちをこゝろゆる▲そこはそげ手ふはし
▲できものゝあと紙をかく治る▲いもがれに用て老ぜんといふ治る
▲ゆきびかれてできものにぬるなり▲そこ紙うるれは業ゆる
老に用ゆまゝ業こけてそかれに老ハのよるそうなし
▲惣才一切のできものにしし▲ひゞあるぎれあせもに
ぬるなり股のこれ六十まる所へもり付てよし

調合賣弘所 江戸 南てんま所三丁目 いなり老んだ いなりの東どなりにて 坂本氏

右の清ゝ手り十包以上はりとめ 第五ぐ 歯時 三重居 立着の
立役女服 正ゆい自手のは扇子けはぶりにして 長下ゆる
十包以上は求めと 其ハ 其ハ 好の役者 長ゆ 出ゆる
用ひやう 多くまく ときはつけてとめ

六三扇
ものかるり
後編
雪麻呂作
國直画
壬午春新板
谷
山本板

三日月周

果毛の二の角程

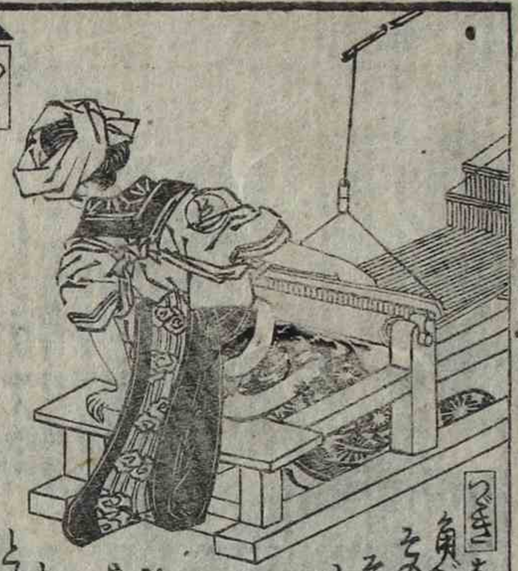
文政五季壬午の春

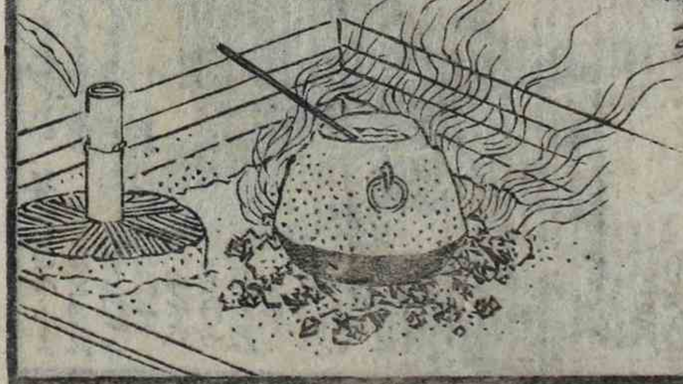
雪麻呂作 国亜画

栄久堂梓

後編上冊

油
柚





「ユリヤヤイ
「あにさん
うんにん
して
くぐさり
ませ

つぎは　たむけのそとろくろくろ
らうそうあらそうの世をうそち
そそろのこゑの石ぶまでちらの
こづくびろのやうにとぐろえんがみ
あくまもわざとやりくりくりこれた
のまをんとちぶさこをうんるにもかひ
助ーかもせまりさまも　ゑ本ぶれ
ひくそうろうげさこにまげこうーが
ばかのひんろくそんこりわりあふ
そうちやそうろうあげくすでた
おぶのとこうくまべ角ぐま
ねどろのさこそうーやとうり
きそろちぶのそろりくくるね
そりやるんとろるされます
「ろんとくへさそそねだやや
いくーうれのろをさまき
じそてまくこそのうこにさそくく
ぎえをれひちぶこにとろーそ
ろんとまやこれがいきそく
みくおうらやまひをこちこさ
くみぶさこそもわきこめられぬへ
世のかやのこそろぶちろろ
そまこにまやこ二人をうたひぐそれ
ざいぶこそこがぶうーそ　ゆりひ

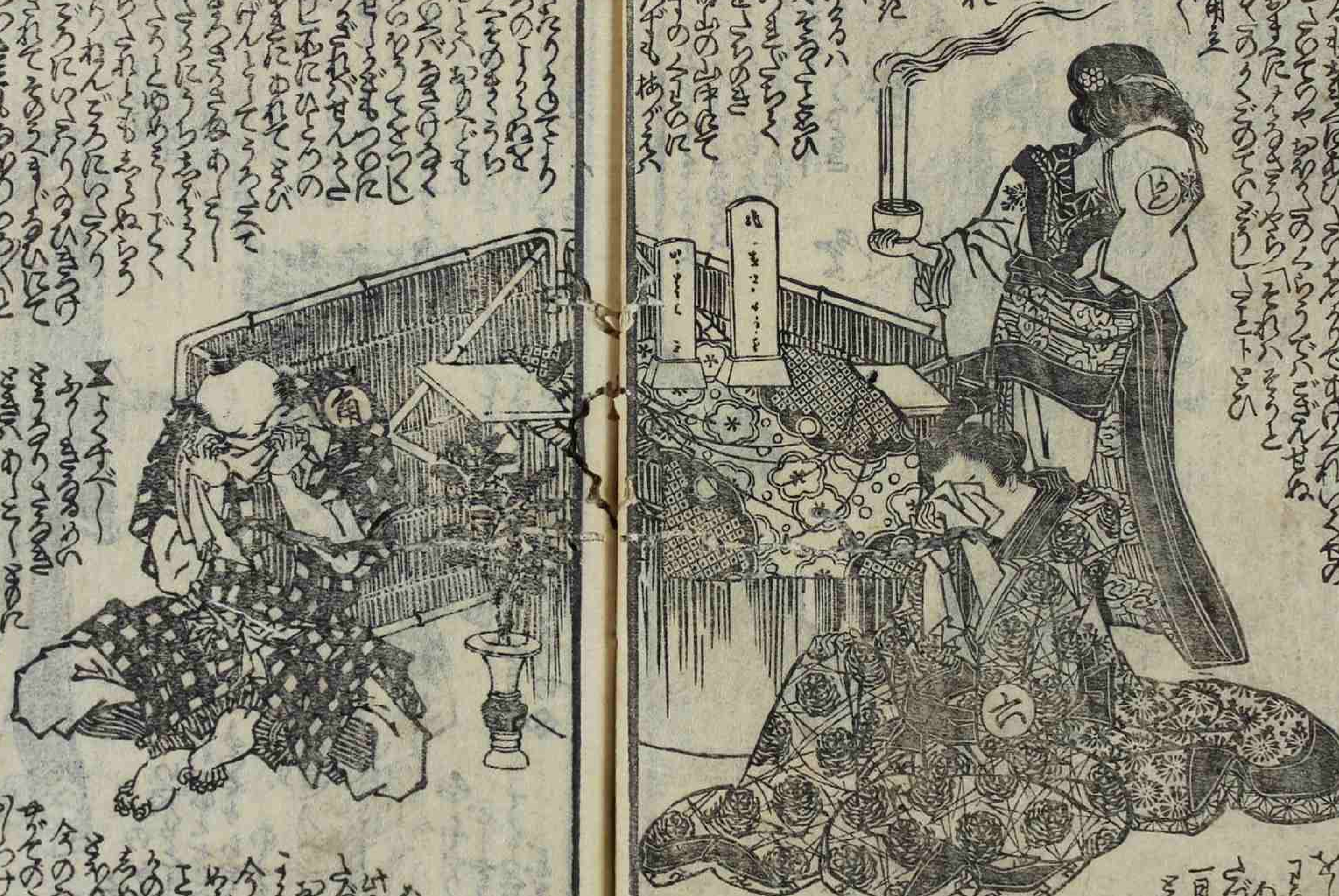
「コレそろて
ぐさくり　まね
ちぶろろ
、やれろ

「くや
ゆんがでも
こちやあるる
そそゆーそ
ころーて
ぐさんせ
そろのそろへ
ちこさん
ゆをぶきの
やどを
ゆりひやり
それおろろうがる
ろゆーひのの

きそれうつりてもそぶのゆりーとのくぐんこうさるそ
ぶろりー日もてらねうおぶのこれるへ　ろこひるへそりや
ぶうよくでぶりまそーときそろきのでくぐきこそこるけーきへ
ろりろろくぐまも
そろろにくま
「おろーを
ころーこそ
ぶとのひーひ
ぶりもうこそ
ようひにへこそをおのろろれさおよぶのそのーしぶりまろくまろて
ぐでこりまやーやりそうのきそりきくるをこれそて
ころーてくトニ人がおくさうおのそぐちこモシぶのの角ぐおどのへ兵
おこりでぶりまそろぶうぞをそーそでさりまやトおろそこおもきろのゆれバ

ゆんがでもろやくーこさり
うぶんにこまのんへ
ろおろろへ「ヨヤ
「ここまでくえ　ろ
ぶヤーそろおぶ
ろのゆけーぶろ
ぶんーくろ
「そこそろも
ぶぐ　でと
ふそろり
「そんろう
おろぐぶ
ちこさる
「そろへ角ぐ
「コレツくと
三人ぶこのの
そーのそろひ
ぶやひとまろ
ろこひをれう
ゆ

つぼね「と六郎とをまねきあはせ「コレ二人ともやよ聞やれおまへたちにかく迄も
それはくるしきくらうをかけかくべき身のうへにて日まで
とらしておるも我子にあひたいおもひ一ッにて
のあはれさでそのやうすをかくの心しらずに
あたらしくもおもふ事のもたらさんとやら「それはそうと
今のその身でこのくすりをのんではござりませぬ「コレトいひ
えいみれ角三
ととろかく
わしと
ぞも
めの
ぐるれ
さきぐふ
きてとぐ
ききもつぎれ
るがけき
をまで
あそてるた
あぞくら
ありていふひおるハ
口これも又そこそこ文ひ
桐がえとつまでにちく
ふるさとをさらのき
しに園田山の山中にて
とうぢのくすりの今年のに
おひおりわずも桐がえへ



ここのたに
きこつわさる
そのぞく
これも又
わつてこに
おもふてう
一月あまり
そうかせあ
ふーすぎや
めへ
その
おし
あそ
わして
ゆへの
どく
ほど
まで
よぎも
ほせご
せつの
きくろう
ざればそ
こでも

きがらーしまつのでより
うれがてみのしうらねを
きうーゆへそのまくうち
すてかるよハおのでも
むすうとのハあきけふく
とやらくのありてきつも
いろくにせーるぎもつのに
しやきつぎれバせんさ
つきてありし西にひとつの
のふく西に内れてらび
きてしあげんして
さぎかーくれとゆめきへいで
ぞのにきてふにうちきぞく
をらひてかれてんとれ
ぞらきてふりれんごろにいて
のひれんごろにいてうりのひき
るどのまきされてそのうへ
おとこつの言もあやうのろくと
かめうつけーゆへのぞく
やくるくおんそうやとそひ
ふやうにぎつくすもつげの
れのそのくていまくそうの
されにおやするくあんぢれなり
あつくもといゐる西にいりのあんせんに

よくぞ
ふーきまるかい
まるのきまきまきい
わこてしまれに
このちおんぶくのて
うらんまきあさこのそれ
いさくいあんちのさき
女にあひ一トしびるすむ
とありとも子どもいくど
さくようこびあるべし

ゑれ
ものひき
さきらく
までりるハ
今のあげきハ
かぞのようこび
あつけきさし
のあるべきなれ
まずのでぞぞ
まぶへーよくさ
るにやとまらく
まさもうら
よろこび

油

油

弘智法師入定

素人狂言 江川馬作 仮名書
仕人見物 赤本昔物語 四冊 五渡亭国貞画

欽堂間人作
杜綠 久松 花競色讀販 六冊 哥川国丸画

墨川亭雪丸作
可志久 六三郎 弘智法印岩坂松 六冊 哥川国直画

月光亭笑壽作
小女郎狐手引之仇討 六冊 勝川春好画

十返舎一九作
木曽の秋錦嶺揚 六冊 哥川豊国画

十返舎一九作
金の生木の枝 一枚摺 常北著 美九画
同 後編 一枚摺 次編まだ出ず

答

江戸ゟ 町川岸親仁橋角 地本問屋 山本平吉板

晋米斎玉粒編
狂言 增補忠臣蔵 六冊 一陽斎豊国画

欽堂間人作
社綠 久松 花競色讀販 六冊 哥川国丸画

墨川亭雪丸作
可志久 六三郎 弘智法印岩坂松 六冊 哥川国直画

月光亭笑壽作
小女郎狐手引之仇討 六冊 勝川春好画

十返舎一九作
木曽の秋錦嶺揚 六冊 哥川豊国画

十返舎一九作
金の生木の枝 一枚摺 常北著 美九画
同 後編 一枚摺 次編まだ出ず

答

江戸ゟ 町川岸親仁橋角 地本問屋 山本平吉板

つゞき

すてこれ共つゐにきのきくなそこゐれバ今こゝにくらうの六ろくりんがこれやこのゆくもかへるもわかれてはしるもしらぬもあふさかのせきもるやうなひまもなくぶつ〳〵のもんにおもてをかくしてたゞ〳〵のめのまへのあきをさのうちにとをつまりこゝろ一ぱいもあればさんどやしてお出さまさへ角べゑのしこゝにいたつてあるまいものゝふぐあいとちがへあるまいひとゝのゝりてまつらひしやうばいのくんこにもまつたれうのまち行のはしのまつくろくろ文をまつたれうのときのくこゝろそめうつうつうつとよびかるゆへ今の世までもらひうつうつるまぞめでたしくく

○一すじひろう
同行二人 菅笠日記 同伝図画

文国
24L
43

山本平吉 版
金 錦 堂 蔵

本朝孝子伝	豊川善曄	四冊
錦手本法帖	国直画	四冊
同 後編	北尾重政画	四冊
金毛三国志	北尾重政画	六冊
絵本通俗三国志	葛飾北斎画	六冊
絵本武者鑑	豊川国安画	六冊
絵本太閤記	豊川国安画	四冊
絵本曽我物語	豊川国安画	四冊
絵本朝顔日記	豊川国安画	四冊
絵本忠臣蔵	豊川国安画	四冊
絵本楠正成	豊川国安画	四冊
絵本義経記	豊川国安画	四冊
絵本三国志	豊川国安画	四冊
絵本水滸伝	豊川国安画	四冊
絵本西遊記	豊川国安画	四冊
絵本信長記	豊川国安画	四冊
絵本太閤記	豊川国安画	四冊
絵本曽我物語	豊川国安画	四冊
絵本朝顔日記	豊川国安画	四冊
絵本忠臣蔵	豊川国安画	四冊
絵本楠正成	豊川国安画	四冊
絵本義経記	豊川国安画	四冊
絵本三国志	豊川国安画	四冊
絵本水滸伝	豊川国安画	四冊
絵本西遊記	豊川国安画	四冊
絵本信長記	豊川国安画	四冊